

3 地域医療を支える新しい力に期待しています。

指導医メッセージ

血液内科 血液内科の醍醐味

井田 桃里

血液内科の醍醐味は、診断から治療まで、場合によっては看取りまでの、全ての過程に関われるということでしょうか。

治療を目指して造血器腫瘍の治療に取り組む中で、抗がん剤の使い方、有害事象への対応を学んで下さい。そして治ったときの喜びを、患者さんとともに分かち合しましょう。一方、治すことのできない疾患を抱えた患者さんと接する中で、医師としての在りようを考える機会を持ちましょう。

当院では同種造血幹細胞移植を除く全ての血液疾患診療が可能です。一緒に醍醐味を味わいましょう。



泌尿器科 高齢社会での必須医療 副院長 羽入 修吾

高齢社会において泌尿器科の医療は不可欠です。当科は新潟大学泌尿器科教室の協力を得て2人体制で診療を行っています。年間の外来新患は約1500名、新入院は約400名、手術は約400件。尿路感染症、尿路結石症、排尿障害、前立腺疾患、泌尿器がんなどの患者さんを診療します。

手術では尿路内視鏡手術が約7割を占め、腹腔鏡手術、ESWL、泌尿器がんの開腹手術も行い、がんの化学療法、放射

線治療、緩和医療にも取り組んでいます。一緒に最新の泌尿器科診療を学びましょう。



一般外科 最新手術を地域に提供 副院長 植木 匡

当科は、柏崎市の基幹病院として市民への消化器一般・乳腺外科手術と癌治療を担っています。腹腔鏡手術は、大腸・胆石・胃・虫垂・鼠径ヘルニアなどに行い、根治性と安全性を重視し適応を選んでいます。開腹手術も肝胆道系悪性疾患を含め数多く行っています。術前・術後管理・抗癌剤治療・緩和ケア・栄養サポートなども消化器癌や乳癌治療を通して学ぶことが可能です。各種学会・研究会や地域医師会の懇話会にも積極的に発表し、最新知識を身につけ知識をまわることが出来ます。

外科学会、消化器外科学会、乳癌学会の専門医が常勤し指導教育を行っています。最新の外科手技や治療方針の習得、告知から終末期までの癌治療の研修、地域医療と外科医の連携の研修ができます。



整形外科 仕事を楽しく学ぶ 津吉 秀樹

手の外科、関節外科など多岐にわたる得意分野を持つ3人で広く外傷、変性疾患を取り扱っています。

常勤3人+助勤医で年間1000件以上の手術をしていますが、これは整形外科医6~10人体制に匹敵する手術件数です。若さとフットワークとノリの良さを生かして楽しく仕事をしています。初期研修の皆さんには、何科の医師になっても役立つように、直当などで遭遇する整形外科疾患、外傷などの基本を教えます。さらに望めば即戦力として通用する整形外科的な外傷、外科系救急の初

期対応、治療、手術まで習得をサポートします。

勢いと笑いのある整形外科で「仕事って楽しい♪」と思える研修を保障します。いや、ホントです。誇張してません。



呼吸器内科 内科診療の基本

諸橋 数昭

呼吸器内科は、感染症、アレルギー疾患、自己免疫性疾患、腫瘍、機能障害など、肺と言う臓器の中で、驚くほど多彩な疾患群を診るのが特徴です。

一枚の胸部X線写真と患者さんに向き合って、どれだけの疾患の可能性を考え得るかが大切です。

そして抗生剤やステロイド剤など薬剤の使い方、呼吸管理、終末医療など、全ての内科診療の基本となる研修の中で、

呼吸器内科ならではの奥深さを感じてもらえるよう努めたいと思います。



腎臓内科 充実したチームワーク力 副院長 長谷川 伸

診療内容は、急性及び慢性腎臓病(腎炎、腎不全)や糖尿病、膠原病など他疾患の合併症としての腎障害の検査、治療および透析療法を行っています。特に血液浄化療法の分野では、看護師、臨床工学技師とチームとしての連携を大切にしています。基本診療指導方針は、まず正確に病態を把握し、時期をはずさず最も効果的な治療が行える能力を養うことを目指しています。

「You never walk alone. You can walk together with us.」



脳神経外科 急性期とその後を通して診る 富川 勝

当科では脳卒中患者さんの治療が主体となりますが、急性硬膜外血腫など一刻を争う外傷性疾患、脳腫瘍手術や術後化学療法も含め、幅広い疾患に対応しています。当院での血管内治療はできませんが、血管内治療が必要な患者さんは主に立川総合病院へ紹介しており、その適否については主に当科で判断しています。

対象人口が高齢でもあり、ほとんどの患者さんが高血圧症、糖尿病、脂質異常症、心疾患や呼吸器疾患などを合併しており、日々患者さんから幅広い知識を学ぶことができます。また当院には回復期病棟が併設されており、急性期治療が完

了した患者さんのその後の経過も診ることができる特徴を有しています。リハビリを継続して行った後に見違えるほど回復した患者さんを診ることができ、この点は他の急性期病院では経験できない当科の特徴と言えるでしょう。



消化器内科 患者さんを第一に考える 五十川 修

消化器内科は5名の医師で診療を行っています。入院患者は50から60人を担当し、2011年度で年間上部内視鏡(3461件)、下部内視鏡(1096件)、ERCP(153件)などの検査、及び食道、胃、大腸ESDやERCPを用いた碎石処置やドレナージなどの治療内視鏡を積極的に行っています。さらにPTCD(PTGBD)、RFAなどの穿刺治療や、TACE、動注リザーバー留置などのIVRも積極的に行っています。

消化器内科は扱う臓器が多く様々な疾病があり、患者数も業務量も多く大変ですが、病状説明を十分に言い、患者さ

んを第一に考えた診療をするように努めています。

多様な疾病、病態を経験すると共に、診療にあたる姿勢も学んで頂きたいと思っています。



麻酔科 基本手技の早期修得を

倉田 豊

市内で唯一の日本麻酔科学会認定施設であり、ほぼ全ての分野における症例が経験できます。症例数も多く、医師にとって必要となる気管挿管や中心静脈カテーテル留置などの手技を短期間で習得できるのみならず、多岐にわたる疾患の術前管理から術後管理までを学ぶことが可能です。

外来では慢性疼痛に対する神経ブロックや漢方薬治療などを学習すること

により、急性疼痛から慢性疼痛まで幅広く対応できる医師の育成を目指します。



放射線科 診断能力の向上、進歩を臨床へ 大西 裕三

医療機器の進歩は目覚ましいものであり、当院でも最新のMRI、CTへの更新が行われました。当科では専門医による各種画像診断および主に悪性腫瘍を対象とした放射線治療を行っています。当院は、地域基幹病院のため症例が豊富であり、またフィルムレスで運用していることもあり過去画像の閲覧も行いやすく、急性期疾患を中心に修練しやすい環境にあります。将来、何科に進むにしても画像

診断は役に立つものと考えます。研修医の皆さんの参加をお待ちしております。



小児科 小児のプライマリケアを学べます 板垣 成孝

当院の小児科は、常勤医2名体制で、一般小児科を担当しています。

外来については、上気道炎、気管支炎、肺炎、胃腸炎などの感染症が多く、このほか、気管支喘息、血友病、てんかんなどの慢性疾患のフォローもしています。特殊な症例はわずかですが、小児のcommon diseaseを数多く経験できます。これは救急外来での診療にもきっと役立ちます。

病棟については、外来と同様の入院患者を担当するほか、新生児診療もあります。早産児や低出生体重児、新生児仮死などの病気の新生児の他、正常新生児の診療も多く経験できます。新

生児に苦手意識を持つ先生は多いですが、慣れると新生児は怖くない(かわいい)ですよ。

当科での研修は、小児科を志す先生はもちろん、将来、他科を選択される先生にとっても、小児のプライマリケアを学ぶよい機会になると思います。



産婦人科 女性の一生のトータルケア 小林 弘子

産婦人科は誕生から老年期まで、女性の一生を通した診療ができる科です。分娩を取り扱う産科のみならず、手術や化学療法、緩和ケアまでの悪性腫瘍、良性婦人科疾患、不妊内分泌疾患、思春期や更年期診療と領域は多岐にわたります。

科の特性として、患者さんの家庭背景にかかわることも少なくありません。当院は常勤2名ですが、大学からの出張もあり、研修や講演会にも参加しながら、市内唯一の総合病院の産婦人科として、日々忙しく、やりがいをもって診療をおこなっています。

もちろん高度な手術や未熟児管理など困難なケースは、周辺病院と連携しながら

ら対応していますし、地域に密着し、市役所との会議や性教育講演にも出かけています。

敷居の高い産婦人科を訪れてくれた患者さんの笑顔のために、いっしょに新しい命の誕生に喜んだり、3世代の女性の悩みに寄り添ったりしてみませんか。



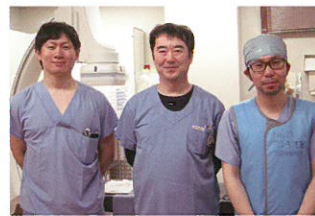
循環器内科 臨床能力を高める

井田 徹

当科は日本循環器学会の循環器専門医研修関連施設に指定されています。急性冠症候群を含めた虚血性心疾患に対する緊急および待機PCIや診断目的の心臓カテーテル検査を中心に、循環器疾患の診断、治療を常勤医3名で行っています。

研修医の皆さんには、臨床的な循環器疾患の鑑別、診断、治療の能力を身に

つけてもらうべく指導いたします。



内分泌・糖尿病内科 地域での合併症予防に貢献 片桐 尚

糖尿病等の管理を通じて患者さんの健康寿命の維持に、また地域全体の合併症予防に貢献することをめざしています。

糖尿病学会、内分泌学会教育認定施設、甲状腺学会認定専門医施設です。内科初期研修として一般内科、救急から専門的医療を学び、実力をつけられる場です。是非おいでください。



地域連携について 地域医療研修施設から

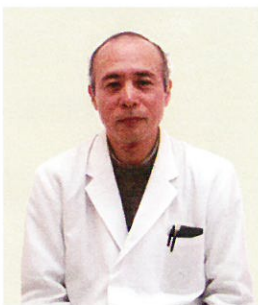
柏崎市 国民健康保険 野田診療所 三浦 公一郎

諫言の士 魏徴を

臨床研修漬けて医療知識・技術は積算の日々でしょう。患者さんに寄り添う Hospitality を心掛ける方、the Last hope たらんと一意専心の方…未完の大器群を私達は羨望を持ってお預かりしています。

老爺心ながら Liberalarts・耕心も研修され、裸の王様に魏徴も得て

下さい。耳鼻科の故切替教授はどなたにも「お耳を拝見します」で始められ、難聴の方には自ら耳許まで近付かれ普段の声遣いで済む診療を貫徹されていました。



西山ふれあいクリニック 小川 公啓

当院は旧西山町地区(人口約6000人)の一次医療を担当しています。内科(特に高齢医学)が専門ですが、整形外科や皮膚科など

専門外の患者さんも多く来院します。高度な医療はできませんが、在宅医療も含め患者さんの希望や気持ちに寄り添った医療を心がけています。また、入院が必要な場合や高度な検査が必要な患者さんを的確に判断し、総合病院や専門病院へ繋ぐ大事な役割もあります。

若い先生の皆さん、地域医療の大変さ&楽しさを是非体験して頂きたい。

